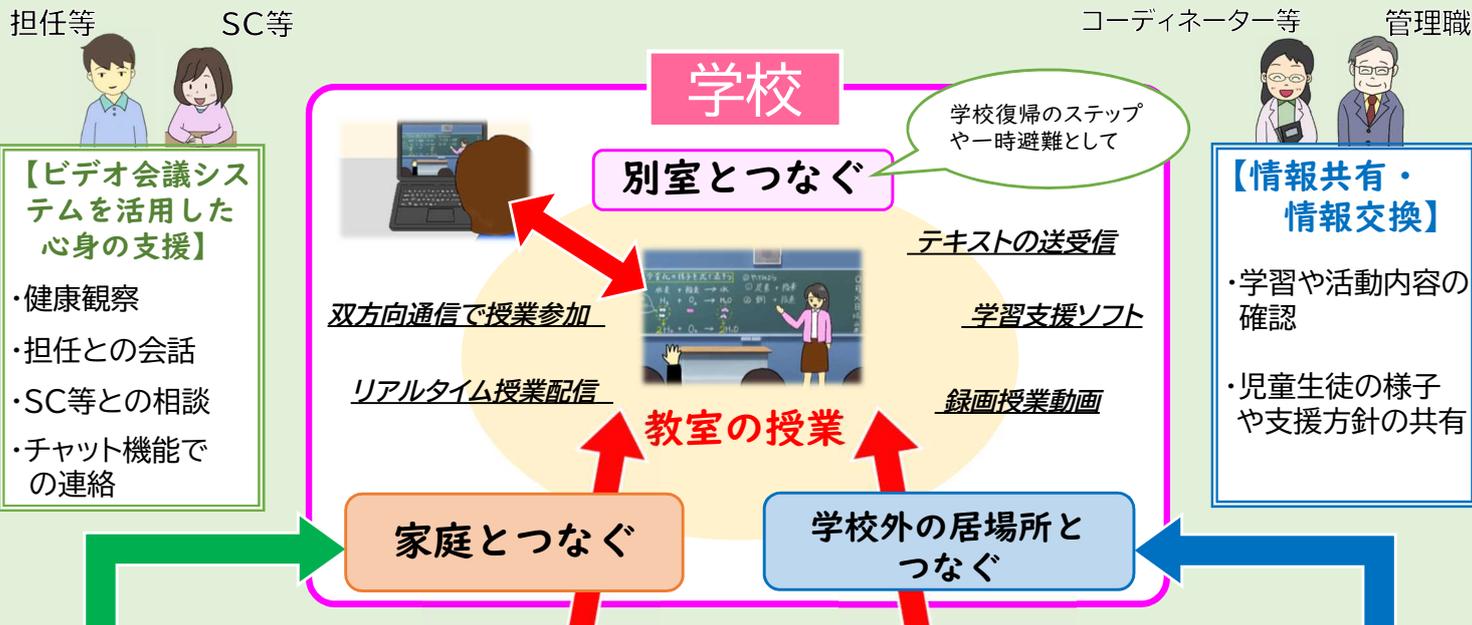


ICTを活用した不登校児童生徒支援について

～誰一人取り残すことのない学びの実現に向けて～

不登校児童生徒支援において、教育機会を確保したり、学びを通して社会とのつながりを保ったりすることは、社会的自立や学校復帰に自主的に向かうために大変重要な取組です。

一人一人の状況に応じた多様な学習支援を実現するために、空間的・時間的な制約を超えた支援を可能とするICTを以下のように効果的に活用し、学校や家庭、学校外の居場所等の連携・協力の充実を図りましょう。



【ICTを活用した学習支援】

児童生徒の思いをしっかりと把握し、保護者と協力しながら支援策を考えていくことが大切です。登校することが難しい児童生徒であっても、ICTを活用して学校と家庭や学校外の居場所等をつなぎ合わせ、個に応じた学習支援の充実を図りましょう。

なお、ICTを活用する場合には、当該児童生徒に対して、ICTリテラシーなど必要な指導を事前に行う必要があります。

テキストの送受信・学習支援ソフトの活用

- プリントでのやりとり
- ドリルによる課題

録画による授業動画配信

- 録画動画を見ながらの自主学習（止めたり戻したりできる）

リアルタイムの授業動画配信

- 他の児童生徒と同じ生活リズムで授業を見ながらの自主学習

双方向通信による授業参加

- 授業者や他の児童生徒とやりとりをしながら授業に参加

<外出が難しい場合>

○授業動画の視聴・授業参加

- 授業の雰囲気や進み具合がわかる。
- 欠席していることへの不安を軽減。
- 録画であれば何度も見直せる。
- 友人との交流（授業中・休み時間）も可能である。

○ネット上に配信されている動画の活用

- 授業動画アプリや県オンラインサポート授業動画の活用。
- 自分で必要な情報を探すスキルを高める。

○フリースクール等へのオンライン通所

- 居場所を確保し、孤立感の解消を図る。
- 学校とは違った環境での交流。
- 自分のペースで学び、自身の強みを発見したり、伸ばしたりする。

<定期的に学校外の居場所と関わる場合>

教育支援センター

○授業動画の視聴・授業参加

- 分からないことを支援員に質問。
- 授業内容をもとに支援員に教わりながら課題に取り組む。

○支援員とオンライン相談

- 通室日以外でも、相談員と会話し、つながりを保つ。

フリースクール等民間施設

○学びのチャンスを広げる支援

- 体験的な学習活動による自己肯定感の向上。
- 児童生徒の才能や能力に応じた活動。
- 学びの再開につながる支援。

家庭

学校外の居場所

